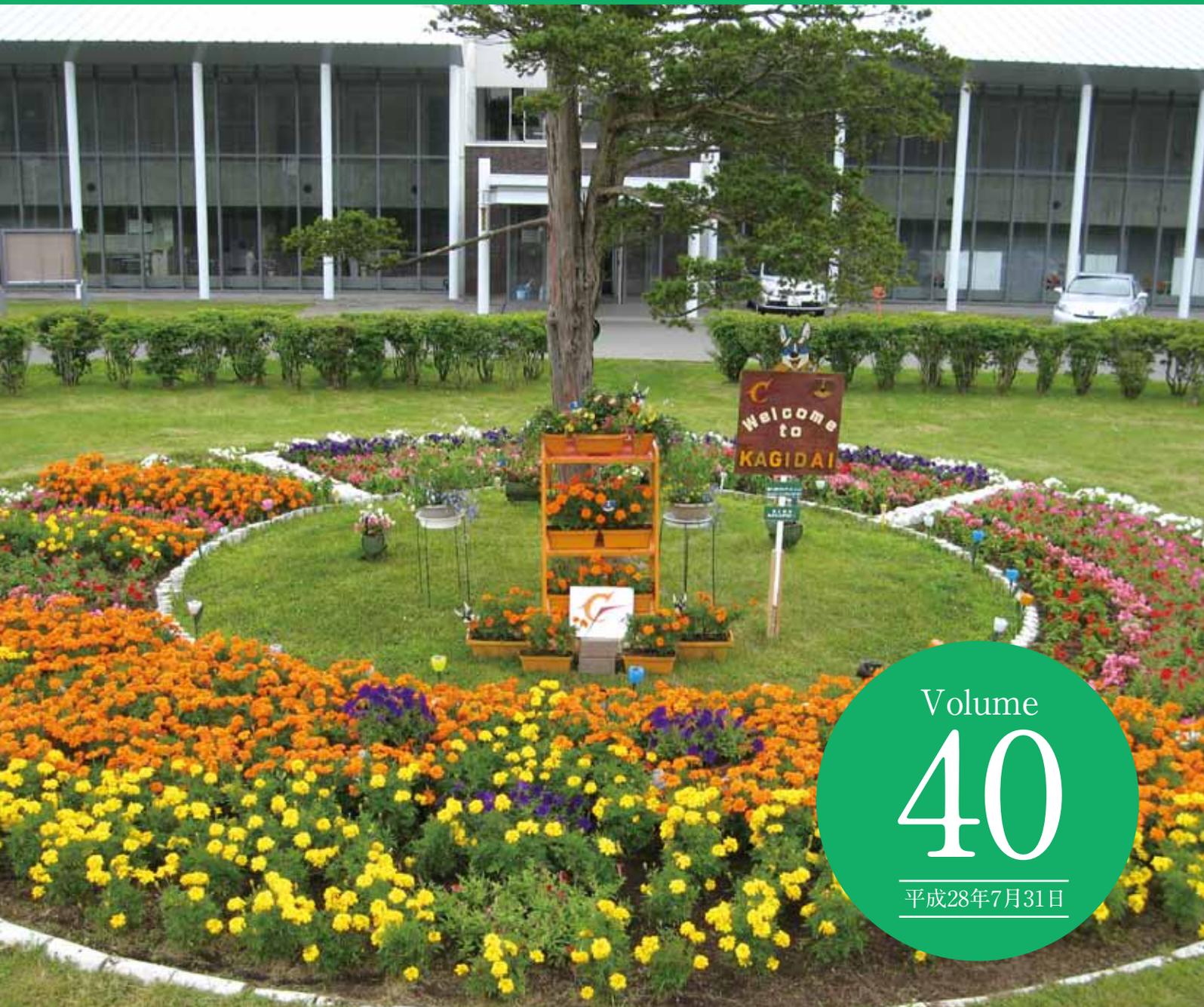




Chitose Institute of Science and Technology

千歳科学技術大学報

発行／学校法人千歳科学技術大学企画総務課 千歳市美々758番地65 TEL.0123-27-6001 ■ホームページ www.chitose.ac.jp



第29回(平成28年度)花いっぱいコンクールで最優秀賞を受賞しました

平成28年5月下旬に菜園サークル、理工工房の学生らと、本学の職員らが協力して植付けをし、手入れを続けてきた、研究・実験棟前ロータリーの花壇が、公益財団法人ちとせ環境と緑の財団主催の「第29回(平成28年度)花いっぱいコンクール」において、最高の賞である最優秀賞を受賞しました。昨年度の優秀賞から、順位を一つ上げての快挙です。授賞式は千歳市内で8月29日(月)に執り行われる予定で、本学からは菜園サークルの学生3名が代表で出席します。

学長からのメッセージ

「初心に返って」

昨年の学報でもお知らせしましたが、本年4月に「情報システム工学科」が発足し、新「理工学部」の体制が完成しました。

建学時当初、初代佐々木敬介学長は「理工融合」を目指しておられましたので、まさに「初心に返って」新たな千歳科学技術大学の歴史を刻む体制がスタートした、ということになります。

学部名称として、理学、工学、理工学などが存在しますが、学位として理学、工学では無く、「学士(理工学)」としている大学は国内でもわずかしかなかった。その中で特に理工融合を目指す意味は「大学としてコアとなる教育をしっかりと行った上で、産官学共同体制の下で真に社会に役立つ研究開発を行い、人材を輩出する」という趣旨を意味しています。

大学で教育・開発した人材と技術が真に社会に役立つ、その成果を持って社会とともに発展する大学を目指す、という趣旨の建学精神「人知還流」の意味するところでは

一方、世の中では基礎研究と実用化開発の間の大きなギャップを魔の谷、死の川などと表現しますが、出口に近づくほど担当者の人間性が開発や事業の成否に大きく関係してきます。その意味で本学のもう一つの建学精神「人格陶冶」は単に「人格を磨く」という以上の意味が含まれています。

さて、ここ数年「教育改革」、「大学改革」の動きが大きく進んでいます。

前者は「高大接続改革」という表現の方が良く耳にされるかもしれませんが、この少子化の状況の中で、個々人の力を最大限に活かし、我が国の総合力を維持・発展させていくために必須の改革です。求められている内容は「知識や技能」付与の教育だけではなく、知識技能を活用した「思考力・判断力・表現力」、さらには「主体的に取り組む態度(主体性、協働性等)」が教育の3要素とされています。本学は卒業時の質保証の取り組みで、今年度文部科学省の「大学教育再生加速プログラム」に採択され、上述した初心に返ってその遂行を目指しているところです。

本事業の推進には産官界に加えて、卒業生の力も大いに必要となりますので、関係各位のご支援をこの場を借りてお願い申し上げます。



千歳科学技術大学 学長

川瀬 正明

平成28年度文部科学省大学教育再生加速プログラム(AP)に採択されました

「大学教育再生加速プログラム(以下“AP”とする)」は、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組みを実施する大学を支援することを目的としています。

平成28年度は「テーマV 卒業時における質保証の取組の強化」の公募が行われ、116の応募校の中から、採択されたのは本学を含め19校でした。

文部科学省では本事業を「高大接続改革推進事業」と位置づけ、入口(入学)から出口(卒業)まで質保証を伴った大学教育を実現するため、総合的な取組みを一層強力に推進する事と、全国の大学に対して積極的に情報発信することを期待しています。

【取組みの概要】

本学は本AP事業を中核事業と位置づけ、GP等の成果を一体化させて教育改革の加速を目指しています。従来のディプロマ・ポリシーを、学力観を意識したコンピテンシーベースのものに改訂し、カリキュラムの体系化を図ります。その上で、コンピテンシー養成のためにICT活用教育環境を構築し、これと並行して、初年次系修学支援室の体制強化、キャリア教育、クラスアドバイザーの実働、専門科目・指導教員によるパフォーマンス評価を行います。

これらを組み合わせ、反転学修とアクティブラーニングなどの推進とでディプロマ・サブリエメントの活用などにより、授業改善を一体的に行います。

本事業では、これらを学修過程・学修成果の可視化として提示し、社会の要請に基づく質保証に応え、高大接続システム改革に資する教育システムの確立を目指します。



トピックス

平成28年度 千歳科学技術大学・大学院 入学式を実施しました

平成28年4月9日(土)、本学講堂において平成28年度千歳科学技術大学・大学院入学式を挙行し、理工学部197名、大学院光科学研究科17名、計214名が新たな一歩を踏み出しました。

式は、ご多忙にもかかわらず、多くのご来賓・ご父母のご臨席を賜り、午前10時から始まりました。式では、川瀬正明学長による式辞に続き、新入生を代表して理工学部1年生の川端泰成さんによる宣誓が行われました。また、伊澤達夫理事長、山口幸太郎千歳市長からもそれぞれお祝いの言葉をいただきました。

入学式の終了後は、保護者を対象とした保護者説明会を開催しました。山中明生学部長による大学概要説明に続いて、大学教育センター、学生支援センター、キャリアセンターの各センター長より学習、学生生活、キャリア指導等に関する説明が行われました。



伊澤理事長



保護者説明会の様子

大学見学を実施しました

本学では、中・高校生に対し大学の教育内容についての理解を深めていただくことを目的とし、大学見学を実施しています。模擬講義や研究室見学を通して、大学での学びや研究に触れ、進路意識・進学意欲を高めるため、また大学に興味を持っていただくきっかけ作りに役立っています。

平成28年度4月から7月にかけて、以下の学校にこの制度を活用して大学見学に来学いただきました。

中学校

- ・えりも町立えりも中学校:7月13日(水)
- ・恵庭市立恵庭中学校:7月14日(木)

高等学校

- ・北海道千歳北陽高等学校:4月22日(金)
- ・北海道札幌西陵高等学校:6月9日(木)
- ・北海道苫小牧南高等学校:6月21日(火)
- ・北海道浦河高等学校:6月23日(木)
- ・北海道室蘭東翔高等学校:6月23日(木)
- ・北海道札幌平岡高等学校:7月21日(木)



苫小牧南高校



室蘭東翔高校



札幌平岡高校

北海道千歳高等支援学校の 生徒さんが現場実習を行いました

平成28年6月13日(月)から24日(金)までの2週間にわたり、北海道千歳高等支援学校の生徒さん3名が本学で現場実習を行いました。実習中は車の点検作業や花壇手入れ、体育館清掃などに従事し、皆さん真剣に作業に取り組んでいました。

最終日の24日(金)は、理工工房の部室を訪れ、初めて見る実験に興味津々の様子でした。ロケットの発射では歓声が上がり、最後は自作の万華鏡を手に笑顔で実習を締めくくりました。



作業の様子1



作業の様子2



理科実験の様子1



理科実験の様子2

ライトアート工房が苫小牧市の 「美術博物館祭」に参加しました

電子光工学科の青木広宙准教授が率いるライトアート工房が平成28年7月23日(土)から31日(日)まで、苫小牧市美術博物館で開催された「美術博物館祭2016」に参加しました。

芸術家の藤沢レオさんと作曲家の中坪敦彦さん、そしてライトアート工房の3者がコラボレートしたスペシャルライブや、夜の美術博物館にライトアート工房制作のプロジェクションマッピングが流れる企画など、盛りだくさんの内容でした。会期中は多くの方が苫小牧市美術博物館を訪れ、博物館祭を楽しみました。



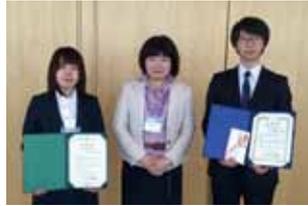
ライブの様子



藤沢さん、中坪さんとライトアート工房

木村研究室の院生2名が第36回骨形態計測学会において賞を受賞しました

木村研究室所属の大学院生、浅井恵さん(光科学研究科光科学専攻博士前期課程)と伊藤哲平さん(光科学研究科光科学専攻博士後期課程)が、平成28年6月23日(木)から25日(土)に新潟コンベンションセンター(新潟県)で開催された、第36回骨形態計測学会において、それぞれ若手研究者賞と学術奨励賞を受賞しました。



写真左から 浅井さん、木村教授、伊藤さん

◇学術奨励賞

演題:骨アパタイトとコラーゲン繊維の配向性の関係

演者:伊藤哲平、金沢恭祐、木村・須田廣美

◇若手研究者賞

演題:慢性腎臓病に伴う低回転骨の骨質解析

演者:浅井恵、兼平裕也、伊藤哲平、屋代充、園生智弘、小林幸雄、居城邦治、塚本尚義、重松隆、木村・須田廣美

院生が第65回高分子学会年次大会において賞を受賞しました

大学院生の瀬川雄太さん(光科学研究科光科学専攻 博士前期課程1年 指導教員:下村政嗣教授)が、平成28年5月25日(水)から27日(金)に神戸国際会議場・展示場(兵庫県)で開催された、第65回高分子学会年次大会において優秀ポスター賞を受賞しました。この賞は、高分子学会年次大会において、優れたポスター発表を行った発表者に対して、授与されるものです。



瀬川さん

受賞した瀬川さんからは「今回は修士課程1年になって初めての学会発表で、賞をいただけるとは思ってもいなかったのですが、自分の研究が認められたのは本当に嬉しいです。いただいた賞に甘んじることなく、今後も研究に精進していきたいと思えます。」とのコメントをいただきました。

タイトル:自己組織化多孔質薄膜を用いたMoth eye構造の作製

発表者:瀬川 雄太

江口先生が電子情報通信学会総合大会において賞を受賞しました

理工学部電子光工学科の江口真史准教授が、平成28年3月18日(金)、九州大学伊都キャンパス(福岡県)で開催された「2016年電子情報通信学会総合大会」において開催されたエレクトロニクスシミュレーションセッションにおいて、電子情報通信学会エレクトロニクスシミュレーション研究会2015年度 一般部門 優秀論文発表賞を受賞しました。



江口先生(右端)

この賞は電子情報通信学会エレクトロニクスシミュレーション研究会における1年間の全論文発表の中から一般、若手それぞれ2名を表彰するものです。

受賞論文発表タイトル

・4倍精度演算による1mm径規模極太ファイバの全モード解析に向けた検討

・大規模数値シミュレーションの精度と4倍精度浮動小数点演算の実装の現状

受賞者:江口真史

青木先生が平成27年度日本生体医工学会論文賞・阪本賞を受賞しました

理工学部電子光工学科の青木広宙准教授が、平成28年4月27日(水)に開催された「第55回日本生体医工学会大会」中において執り行われた選奨報告および表彰式にて、平成27年度日本生体医工学会論文賞・阪本賞を受賞しました。

論文賞・阪本賞は、日本生体医工学会の対象とする領域における学問および技術に大きな貢献をする論文の著者を表彰するもので、同会の機関誌に発表された研究論文のうち特に優秀なもの(年度中一編)を選びその著者に贈呈されるものです。

対象となった論文は以下の通りです。

論文タイトル:

グリッドアクティブステレオを用いた三次元消化器内視鏡におけるキャリブレーション手法

(『生体医工学 Vol. 52(2014) No. 2』pp.97-107)

著者:青木 広宙、古川 亮、西谷 維心、青山 正人、日浦 慎作、

小南 陽子、松尾 泰治、吉田 成人、田中 信治、佐川 立昌、

川崎 洋

平井先生が一般社団法人日本ゴム協会2016年年次大会において賞を受賞しました

理工学部応用化学生物学科の平井悠司専任講師が、平成28年5月19日(木)、20日(金)に、大宮ソニックシティ(埼玉県)において開催された「一般社団法人日本ゴム協会2016年年次大会」若手発表の部において優秀発表賞を受賞しました。

この賞は全体の参加者の中から35歳以下の発表者に対して授与されるもので、今回は28名中4名が受賞しました。

発表タイトル:

加硫ゴムの微細加工と撥水性評価

発表者:

○平井悠司1)、田村陸1)、下村政嗣1)、松尾保孝2)、岡松隆裕3)、有田稔彦4)

1)千歳科学技術大学、2)北大電子研、3)横浜ゴム株式会社、

4)東北大多元研

下村先生が日本顕微鏡学会の論文賞を受賞しました

理工学部応用化学生物学科の下村政嗣教授が、日本顕微鏡学会において論文賞を受賞しました。

この賞は、学会誌『Microscopy (旧誌名 Journal of Electron Microscopy)』に掲載された論文の中より、前2ヶ年の実績を審査し、学術上または技術上特に優秀な論文に対し贈られるものです。

受賞表題:

Dressing living organisms in a thin polymer membrane, the NanoSuit, for high-vacuum FE-SEM observation

受賞者名:

Ohta I, Takaku Y, Suzuki H, Ishii D, Muranaka Y, Shimomura M, Hariyama T

入試情報

平成28年度第1回オープンキャンパスを開催しました



平成28年6月19日(日)、本年度第1回のオープンキャンパスを開催しました。

当日は研究室ツアーや模擬講義、学食体験、学生との交流会といったプログラムをご用意。研究室ツアーや模擬講義では、本学で行われている研究や学びに触れ、学生との交流会では、教職員にはなかなか聞く事のできない大学生活について知ってもらいました。オープンキャンパスの1日はあっという間に過ぎ去り、名残惜しさを感じつつも、参加者の皆さんは学生とカーギー、ひかるくんに見送られて解散となりました。

年間4回を予定しているオープンキャンパスでは、何度来ても楽しめるものになるよう毎回プログラムを工夫しています。

「1日科技大生」を開催しました

「1日科技大生」を平成28年4月29日(金・祝)に開催しました。「1日科技大生」とは学期中の大学キャンパスで高校生が大学生と同じ通常授業に参加し、入学後と同じ「普段の一日」を体験してもらうプログラムです。当日は道内各地から21名の高校生にご参加いただき、科技大の日常を体験してもらいました。

参加者からは「他の参加者と意見交換できたので、よい機会だった」「大学生の雰囲気を知ることができた」などの感想をいただきました。



オープンキャンパス今後の予定

9月25日(日) 11月6日(日)

入試に関するお問合せ 担当:入試課

TEL:0123(27)6011 FAX:0123(27)6076

E-mail:nyushi@photon.chitose.ac.jp

「研Q探Qカーギーズ」の
第7巻が完成しました

本学の研究を分かりやすく紹介した、「研Q探Q(けんきゅうたんきゅう)カーギーズ」の最新号(第7巻)が完成しました。今回登場するのは首我先生、川辺先生、福田先生の研究室です。先生が取り組んでいる研究についてカーギーズが質問をぶつけます。ご興味のある方は入試課までお問合せ下さい。

大学公式Twitterにて、大学情報発信中！

@cistkoho 検索



本学のイベント情報や学生活動、何気ないつぶやきなどジャンルを問わず、ゆるっと発信しています。スナップ写真には、たまにミニ・カーギーが登場します。

？カーギーとは？

オレンジのつなぎと、ゴーグルがチャームポイントのカーディガン・ウェルシュ・コーギーのオス。好奇心旺盛な中学1年生の男子、科技田ひかるの家に暮らす。ひかるとカーギーの一人と一匹で「カーギーズ」というユニットを組み、科学の疑問を探求すべく、毎回本学にやってくる。科学の知識に関しては、ひかるに教えてあげる事も多い。

カーギーとひかるが活躍する本学オリジナルコミックス『研Q探Qカーギーズ第7巻(最新号)』も配布中です！



連携事業

北海道札幌丘珠高校でeラーニング講習会を行いました

平成28年6月17日(金)北海道札幌丘珠高校で、eラーニング講習会を行いました。eラーニングでは、学校や家庭の他、インターネット環境があればいつでもどこでも学習することができ、今回の講習会ではeラーニングシステムの基本的な使い方を説明しました。

講習会を受講した生徒さんからは、「使いやすく、わかりやすい」「自宅でもeラーニングを活用したい」等の感想をいただきました。



一般社団法人千歳観光連盟と包括連携に関する協定書を交わしました



川瀬学長(左)と瀧澤会長



調印式の様子

平成28年4月20日(水)、ANAクラウンプラザホテル千歳において「千歳科学技術大学と一般社団法人千歳観光連盟との包括連携に関する協定書」を取り交わしました。当日は本学から川瀬正明学長以下6名、千歳観光連盟からは瀧澤順久会長以下7名が出席し締結式が行われました。

これまで「観光」をキーワードとした教育の向上及び調査・研究並びに千歳観光、北海道観光の振興を目的に連携してきましたが、今回の締結により大学が有しているICT技術や研究ノウハウ、観光連盟が有する企画・開発力がこれまで以上に強い結びつきとなり、相互に地域経済の発展に寄与していけるよう協力体制を密にしていきます。

第1・2回公開講座報告

【第1回公開講座】

講演では、数学に関わる人物の紹介から、歴史とともに発展していく数学とテクノロジーの説明、数学の性質、数学はなぜ勉強しなければならないのか、その理由についてお話ししました。また講座の最後には数学を通して身につける事ができる能力とその活用について、分数を例に来場者にもわかりやすく説明しました。

当日は千歳市内をはじめ、恵庭市、室蘭市、岩見沢市、登別市、苫小牧市などから48名の参加者に受講いただきました。

- 日時:平成28年6月4日(土)14:30~16:30
- 会場:千歳市民文化センター 3階 視聴覚室
- 後援:千歳市教育委員会、特定非営利活動法人ホトニクスワールドコンソーシアム
- 演題:数学は役に立ちますか?数学と日常生活の関係性
- 講師:今井 順一(情報システム工学科 教授)



講座の様子(今井教授)

【第2回公開講座】

講演では、中国にて生み出された食文化の成り立ち、その文化が日本へ伝わり変化していった経緯などを日中双方の観点から説明しました。写真を多く用いた解説や講義の資料を手に取り、講師と参加者が交流するなど盛況のうちに講座を終了いたしました。

当日は千歳市内をはじめ、札幌市、北広島市、恵庭市などから40名の参加者に受講いただきました。

- 日時:平成28年7月30日(土)14:30~16:30
- 会場:千歳市民文化センター 3階 中会議室2
- 後援:千歳市教育委員会、特定非営利活動法人ホトニクスワールドコンソーシアム
- 演題:「薬食同源」と「素材重視」 ー 日中食文化の歴史、交流、特長、異同について ー
- 講師:王 建康(電子光工学科 教授)



講座の様子(王教授)

財務情報

貸借対照表

※平成28年3月31日現在

資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	9,497,331	9,531,118	△ 33,787
有形固定資産	5,739,102	5,839,413	△ 100,311
土地	2,995,016	2,995,016	0
建物	2,070,781	2,126,589	△ 55,808
その他の有形固定資産	673,305	717,808	△ 44,503
特定資産	3,756,251	3,686,425	69,826
その他の固定資産	1,978	5,280	△ 3,302
流動資産	1,243,592	1,341,923	△ 98,331
現金預金	1,205,190	1,273,260	△ 68,070
その他の流動資産	38,402	68,663	△ 30,261
資産の部合計	10,740,923	10,873,041	△ 132,118

負債の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	118,352	75,779	42,573
流動負債	289,198	302,501	△ 13,303
負債の部合計	407,550	378,280	29,270

純資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	11,111,569	11,127,665	△ 16,096
第1号基本金	10,989,778	11,005,874	△ 16,096
第4号基本金	121,791	121,791	0
繰越収支差額	△ 778,196	△ 632,904	△ 145,292
翌年度繰越収支差額	△ 778,196	△ 632,904	△ 145,292
純資産の部合計	10,333,373	10,494,761	△ 161,388
負債及び純資産の部合計	10,740,923	10,873,041	△ 132,118

活動区分資金収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日

科目	金額	科目	金額
収入		収入	
学生生徒等納付金収入	998,240	退職給与引当特定資産取崩収入	3,999
手数料収入	12,576	研究特定資産取崩収入	771
特別寄付金収入	5,455	預り金受入収入	311,990
経常費等補助金収入	242,112	立替金回収収入	24
付随事業収入	82,126	小計	316,784
雑収入	16,284	受取利息・配当金収入	43,058
教育活動資金収入計	1,356,793	過年度修正収入	462
支出		その他の活動資金収入計	360,304
人件費支出	723,205	退職給与引当特定資産繰入支出	48,219
教育研究経費支出	455,658	研究特定資産繰入支出	894
管理経費支出	195,226	預り金支払支出	348,446
教育活動資金支出計	1,374,089	立替金支払支出	24
差引	△ 17,296	小計	397,583
調整勘定等	49,279	過年度修正支出	917
教育活動資金収支差額	31,983	その他の活動資金支出計	398,500
		差引	△ 38,196
		調整勘定等	0
		その他の活動資金収支差額	△ 38,196
施設整備等活動による資金収支		支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	△ 68,070
施設設備寄付金収入	5	前年度繰越支払資金	1,273,260
施設設備売却収入	108	翌年度繰越支払資金	1,205,190
減価償却引当特定資産売却収入	218,557		
減価償却引当特定資産取崩収入	659,357		
施設整備等活動資金収入計	878,027		
施設関係支出	17,525		
設備関係支出	31,157		
減価償却引当特定資産繰入支出	890,975		
施設整備等活動資金支出計	939,657		
差引	△ 61,630		
調整勘定等	△ 227		
施設整備等活動資金収支差額	△ 61,857		
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 29,874		

事業活動収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日

当該会計年度における[事業活動収入]及び[事業活動支出]の均衡状況、内容により経営状況を明らかにするもの。

科目	予算	決算	差異
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	1,028,723	998,240	30,483
手数料	10,813	12,576	△ 1,763
寄付金	8,000	5,455	2,545
経常費等補助金	190,896	242,112	△ 51,216
国庫補助金	190,826	242,048	△ 51,222
地方公共団体補助金	70	63	7
付随事業収入	54,645	82,126	△ 27,481
雑収入	7,296	16,285	△ 8,989
教育活動収入計	1,300,373	1,356,794	△ 56,421
事業活動支出の部			
人件費	748,134	767,426	△ 19,292
教育研究経費 (内減価償却額)	640,417	595,565	44,852
管理経費 (内減価償却額)	209,254	207,809	1,445
徴収不能額等	11,950	12,583	△ 633
徴収不能額等	0	2,714	△ 2,714
教育活動支出計	1,597,805	1,573,514	24,291
教育活動収支差額	△ 297,432	△ 216,720	△ 80,712
収入の部			
受取利息・配当金	50,000	43,058	6,942
教育活動外収入計	50,000	43,058	6,942
支出の部			
借入金等利息	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	50,000	43,058	6,942
経常収支差額	△ 247,432	△ 173,662	△ 73,770
特別収入の部			
資産売却差額	10,000	12,422	△ 2,422
その他の特別収入	0	3,180	△ 3,180
特別収入計	10,000	15,602	△ 5,602
特別支出の部			
資産処分差額	0	2,412	△ 2,412
その他の特別支出	0	917	△ 917
特別支出計	0	3,329	△ 3,329
特別収支差額	10,000	12,273	△ 2,273
予備費	(5,000)	0	0
基本金組入前当年度収支差額	△ 237,432	△ 161,389	△ 76,043
基本金組入額合計	△ 40,262	0	△ 40,262
当年度収支差額	△ 277,694	△ 161,389	△ 116,305
前年度繰越収支差額	△ 632,903	△ 632,903	0
基本金取崩額	0	16,095	△ 16,095
翌年度繰越収支差額	△ 910,597	△ 778,197	△ 132,400

資金収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日

当該会計年度における教育研究活動等諸活動に対応するすべての収入・支出の内容、及び当該会計年度における支払資金の収入・支出のてん未を明らかにするもの。

収入の部

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,028,723	998,240	30,483
手数料収入	10,813	12,576	△ 1,763
寄付金収入	8,000	5,460	2,540
補助金収入	190,896	242,112	△ 51,216
国庫補助金収入	190,826	242,048	△ 51,222
地方公共団体補助金収入	70	63	7
資産売却収入	0	218,665	△ 218,665
付随事業・収益事業収入	54,645	82,126	△ 27,481
受取利息・配当金収入	50,000	43,058	6,942
雑収入	7,296	16,746	△ 9,450
前受金収入	178,529	185,307	△ 6,778
その他の収入	832,353	1,036,116	△ 203,763
資金収入調整勘定	△ 161,889	△ 193,709	31,820
当期資金収入合計	2,199,366	2,646,697	△ 447,331
前年度繰越支払資金	1,273,260	1,273,260	0
収入の部合計	3,472,626	3,919,957	△ 447,331

支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費支出	743,351	723,205	20,146
教育研究経費支出	495,856	455,658	40,198
管理経費支出	197,304	196,144	1,160
施設関係支出	18,144	17,525	619
設備関係支出	36,763	31,157	5,606
資産運用支出	494,432	940,088	△ 445,656
その他の支出	372,493	431,427	△ 58,934
予備費	(5,643)	4,357	4,357
資金支出調整勘定	△ 96,098	△ 80,437	△ 15,661
当期資金支出合計	2,266,602	2,714,767	△ 448,165
翌年度繰越支払資金	1,206,024	1,205,190	834
支出の部合計	3,472,626	3,919,957	△ 447,331

KAGIDAIからのお知らせ

千歳光科学国際フォーラム(CIF'17)を開催します

本年11月14日(月)、15日(火)、本学を会場に第17回千歳光科学国際フォーラムを開催します。

今回の国際会議は、本学の元学長の故 緒方 直哉氏のメモリアル会議として開催されます。緒方元学長(第二代学長)は、鮭の白子からDNAを抽出分離する技術を開発し、光・電子材料をはじめとする分離材料、医用材料に応用する研究開発を行ってきました。11月14日(月)の会議においては、緒方先生の研究成果とこのDNAに関する最新のトピックスをお伝えする日本語による公開講演を予定しております。

千歳光科学国際フォーラムではこれまで国際会議に合わせて6名のノーベル賞受賞者を招聘し、市民向けの特別講演を行っております。昨年は、2010年にノーベル化学賞を受賞された米国バドュー大学特別教授の根岸英一先生から「夢を持ち続けよう!」というテーマで講演をいただき、会議参加者、学生等学内関係者、一般市民合わせて約200名の方々が熱心に耳を傾けていました。



根岸英一先生



記念植樹

※写真は昨年のものです

福永宗碧先生よりご寄付(奨学資金)をいただきました

平成28年7月20日(水)に福永宗碧先生(表千家茶道教授)より奨学資金として100万円のご寄付をいただきました。福永先生は、長年にわたり本学の文芸部(茶道)をご指導いただくとともに、これまでも、毎年ご寄付をいただいております。

本学の奨学金制度は、福永先生からのご寄付を契機とし、平成18年度に創設し、運営されております。千歳科学技術大学奨学金は、経済的な理由により修学が困難な優れた学生に対して給付を行っており、延べ124名の学生に給付を行ってきました。

これまでのご厚情に深く感謝申し上げます。

本学へのご寄付のお願い

本学では、皆様からのご芳志を教育・研究活動の一層の充実と学生生活向上のため、幅広く有効に活用させていただきます。

理学と工学を横断する理工学部で、科学から技術までを体系的に教育・研究する本学の取り組みをご理解いただき、多くの皆様に本学の募金活動に対するご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付に関する詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。



新しく赴任された先生からメッセージをいただきました。

大好きなことが研究に結びつく教育をめざしたい

情報システム工学科 村井哲也教授



この4月から情報システム工学科に着任しました。今後ともよろしくご指導の程お願いいたします。

これまで、前職での学生実験などの経験から構想を温めてきた「人が溶け込むAI環境デザイン」計画が、本学科に着任させていただいて、いよいよ実現可能になったと、ワクワクしながら現在準備を進めています。近年、日本の高校生たちが自信を失っている、という報道もあり、自分には何ができるか、私なりに自問し、顧みるに、結局、大好きなことがそれぞれの研究に結び付けば楽しいことこの上ないわけです。そこでそれをアフォードし、それに気付いてもらえる研究室の教育環境を作りたいと思います。

学生の皆さんは研究を存分に楽しむ中で、数学を含む科学の普遍力を実感し、「自ら成長する教養人」を目指してもらえれば、うれしい限りです。

編集後記

今回の表紙は、花いっぱいコンクールで優勝!という嬉しいご報告です。雨の中、花摘みに勤しんだり、休日の暑い日に水やりに通ったり、学生らの地道な努力が優勝という結果をもたらしました。カーギーもごくたまに花壇を見に行っていましたが、その様子は本学公式ツイッターをご覧くださいね。

